

観音寺中学校 道徳通信 11月号

今回は3年生の道徳の授業「闇の中の炎」を紹介します。

闇の中の炎

コンクールに出展する作品を描こうとするも、良いアイデアが浮かばず、画集にある作品を参考に自分の作品を描く理沙。そんな彼女は、次第に人のまねをしているような後ろめたさを感じていきます。良い作品を作りたい！でも…。と葛藤する彼女が出した答えは、新しい作品を書き始めることでした。

〈授業を受けての生徒たちの感想〉

- ・本当はしてはいけないのに、してしまったことに後ろめたさを感じることは誰しもあると思います。でも、その経験が次の自分にどう影響するか考えることが大事だと思いました。
- ・心の中ではダメだと分かっているのに隠したりそのままにしたり、正直に言わなかったときに後になってから後悔する経験をしたことがあります。正直に言うのは、自分が悪いと分かっているからこそできることなので、自分に正直な人間でいたいと思いました。
- ・より良い行動をするには、自分が思ったことや感じたことに素直になることが大切だと思いました。本当は自分でもダメだと思っていることはしない、してしまったときは一人で悩まず、誰かに話してみるようにしたいです。自分で善悪の判断がしっかりできる人になりたいです。



理沙のような経験をしたことがある人もいないのではないのでしょうか。少くくらい…という気持ちに打ち勝ち、自分の良心に従って素直に行動したいですね。

～道徳通信10月号の返信より～

- ・「異なり記念日」素敵な言葉ですね。「普通」とか「一般的に」「常識的に」「みんながしてる」とか、私は考えがちでした。人それぞれ考えも価値観も違いますよね。今、絶賛反抗期中の我が子に対して特に思うようになりました。家庭でも職場でも、お互いに「異なること」を受け止めて、よい方向に向いていけたらと思います。
- ・世の中の価値観や考え方がどんどん変わっていくのに対し、私たち大人が凝り固まった価値観で日頃から子どもに接しているのではないかと気付かせてもらえる道徳通信です。
- ・家族でも、異なるのは当たり前。それぞれが、素晴らしい個性を持っている。拝読し、目が覚める思いでした。家族だからと、つい自分の価値観を押し付けたり、否定したりしてしまふときがあります。子供が生まれる前から、夫婦で、「子供を1人の人間として尊重する」と決めて、いつも心がけてはいるのですが…なかなか完璧には難しい毎日です。これから子供が、自分を大切に、他者も同じように大切にできるよう、寄り添った子育てを心がけてまいります。
- ・「異なり」を認め合い、理解を深め合うことで、自然と助け合いの精神が生まれてくると思います。先日、娘が困っていた障がい者の方を手助けしたと嬉しそうに話してくれました。その姿を見て、とても誇らしく思いました。「異なり」を認め合い、助け合う心を持つ人が当たり前である社会になればと思います。

お知らせ



今年度の道徳通信は、5月号以降ミッターメールでも配信しています。「返信欄」の代わりに、ご意見やご感想がございましたらミッターメールのアンケート機能として「返信欄」を設けておりますので、そちらからご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。